

平成29年度

事業報告書

公益財団法人 通信文化協会

目 次

1	はじめに	1
2	郵政博物館の運営事業	1
	（1）郵政博物館活動	1
	（2）博物館の交流活動	3
	（3）資料センター活動	3
3	前島密賞の贈呈事業	3
4	会報「通信文化」の発行事業	4
5	文化活動の普及・発展事業	5
	（1）文化講演会等の開催	5
	（2）青少年ペンフレンドクラブ(PFC)への活動支援	6
	（3）社会貢献活動の実施	6
6	土地・建物賃貸事業	6
7	会員に対する諸施策	6
	（1）記念品等の贈呈	7
	（2）「郵政博物館」入館料の割引	7
	（3）叙勲祝賀会(会費制)の開催	7
	（4）新年賀詞交歓会(会費制)の開催	7
8	団体傷害保険等の取扱い	7
9	会員増加対策	7
10	役員会議等開催状況	8
	（1）理事会	8
	（2）評議員会	9
11	業務等の見直し	9
○	「事業報告の附属明細書」はない旨の記載	9

1 はじめに

本協会は、明治41年5月に通信協会として発足、同43年には「財団法人逓信協会」に改組し、百余年の歴史を刻んできたが、平成24年3月28日、内閣総理大臣から公益財団法人として認定を受け、同年4月1日に「公益財団法人通信文化協会」として新たにスタートした。

当協会は郵政博物館の運営、前島密賞の贈呈、通信文化の普及・発展等に関する事業を行い、もって我が国の手紙等文字コミュニケーション文化と情報通信・放送文化の向上に寄与することを目的として文化活動等各種施策を実施した。

収蔵施設については千葉県市川市 行徳郵便局内に「郵政博物館資料センター」を設置している。

なお、平成30年3月9日、協会本部は、これまでの墨田区から、文京区に移転した。

2 郵政博物館の運営事業

郵政博物館は、郵政・通信文化の普及・発展に向け次世代の利用者との幅広い交流を図り、歴史的資料・知識を後世に伝えることを目的として、東京スカイツリータウン・ソラマチ9階にオープンして4年目を迎えた。

「展示」、「収集・保存、調査研究」、「文化・教育普及、生涯学習支援」という博物館における3つの活動を行い、不特定多数の方にとって文化教養を磨く場、教育普及の場としての活動を行っている。

(1) 郵政博物館活動

常設展示場では、「心ヲツナグ 世界ヲツナグ」をコンセプトテーマとして、体験型のデジタル機器や映像手法などを使って郵政文化を楽しく体感できる展示を行っている。

企画展示場では、重要文化財をはじめとする貴重なコレクションの展示を行ったほか、郵政・通信文化の歴史を伝承するとともに文化・学術・教育の発展への寄与を目的とした、特別展(企画展)を以下のとおり、年間を通して5回開催した。また、多目的スペースにおいても、時季に応じた各種のイベントを開催した。

郵政博物館の平成29年度の入館者は69,567名(対前年度10,107人増)、開館日数は344日で、一日平均203名であった。

ア 特別展(企画展)開催状況

No	特別展名	期間	開催日数	入館者数(人)
1	郵政博物館誕生115年記念 通信のあゆみ 悠久の大通信展	平成29年4月15日～ 6月25日	70	12,916
2	夏休みイベント かみさまみならい ヒミツのここたま 企画展	平成29年7月1日～ 9月1日	63	21,904
3	郵政博物館115年記念 錦絵 東京浪漫展	平成29年9月16日～ 11月26日	69	11,227
4	日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念 ハンス・クリスチャン・アンデルセン展 —いつもそばにアンデルセンがいた—	平成29年12月9日～ 平成30年2月12日	61	10,172
5	ねんど約100%! 岡田ひとみミニチュアフード展	平成30年2月24日～ 4月8日	42	10,667

イ 多目的スペース等での主なイベント開催状況

No	主催者	イベント名	期 間
1	郵政博物館 NPO 郵趣振興協会	郵博 特別切手コレクション展 第1回 郵便制度史展2017 第2回 沖縄復帰45年記念展 第3回 昭和切手発行80周年記念展 第4回 記念特殊切手コレクション展 第5回 「心をつないだ年賀郵便の歩み —そして未来へ」展 第6回 第5回ヨーロッパ切手展 第7回 第1回いずみ展 第8回 安藤源成展	・4月21日(土) ~4月23日(日) ・5月13日(土) ~5月14日(日) ・6月3日(土) ~6月4日(日) ・10月7日(土) ~10月9日(月祝) ・11月11日(土) ~11月12日(土) ・12月9日(土) ~12月10日(日) ・2月3日(土) ~2月4日(日) ・3月3日(土) ~3月4日(日)
2	郵政博物館	ゴールデンウィーク・ファミリーイ ベント 「レルヒさんと一緒!!」	4月29日(土祝) ~5月7日(日)
3	北夙川不可止・黒沢永紀 (協力:郵政博物館)	「東西名品 昭和モダン建築案内」 出版記念写真展	5月16日(火) ~5月31日(水)
4	郵政博物館	新収蔵資料展	6月3日(土) ~7月2日(日)
5	郵 政 博 物 館 (スペース634 コラボ)	「日本の昆虫と世界のキモアニ ミニ 切手展」	6月8日(木) ~6月27日(火)
6	tomoart (協力:郵政博物館)	「チャックまの夏休み」in 郵政博物館	7月10日(月)~ 7月23日(日)
7	郵政博物館 日本郵趣連合等	全日本切手展2017 第1会場:すみだ産業会館 第2会場:郵政博物館	7月15日(土) ~7月17日(月祝)
8	藍川りの (協力:郵政博物館)	藍川りのちゃんのフェルト展示	7月24日(月) ~7月31日(月)
9	一般社団法人日本折り句 協会 (協力:郵政博物館)	第2回全国折り句コンテスト作品展	11月18日(土) ~11月23日(日)
10	郵政博物館 (協力:一般社団法人日 本絵手紙協会)	みんなの絵手紙年賀状展2018	12月9日(土) ~2月12日(月振休)
11	郵政博物館 (協力:公益社団法人日 本漫画家協会 株式会社 アイデア工房)	まんが年賀状 第9回年賀状甲子園	12月16日(土) ~1月28日(木祝)
12	郵政博物館	ミニ・ペーパークラフト展	2月9日(金) ~2月12日(月振休)

郵政博物館以外では、前島記念館(新潟県上越市)、坂野記念館(岡山県岡山市)及び沖縄郵政資料センター(沖縄県那覇市)において、地域に縁の深い資料の展示活動を行っている。

(2) 博物館の交流活動

当協会では、協会会員サービスの観点も含め、海外の郵政資料施設・郵政博物館との交流事業として、広く参加者を募った視察旅行を企画して、相互の歴史・文化の交流を深める活動を行った。

平成30年2月28日～3月3日 台湾郵政博物館ほか 参加者 15人

また、墨田区における地域活動として、区内に所在する5つの博物館*と連携した「すみだ企業博物館連携協議会」を立ち上げたほか、一昨年11月開館した「すみだ北斎美術館」との連携等により、地域振興・活性化施策の推進を図っている。

*当館ほか、花王ミュージアム、セイコーミュージアム、たばこと塩の博物館、東武博物館

(3) 資料センター活動

ア 資料の収集・保存、調査研究事業活動

資料の収集・保存は、あらゆる博物館活動の基盤となる重要な活動であり、昨今のネット情報社会に対応するため、収蔵資料のデジタル化を推進し、ネット上で公開した。

調査研究については、不特定多数の方から関心を持たれ、評価されることを目指した通信文化に関する研究活動を積極的に推進した。

(ア) 郵政歴史文化研究会の開催(第1～第5分科会および特別研究等)

(イ) 研究紀要の発行(第9号)

(ウ) その他調査研究・修復・保存整理の実施等

イ 文化・教育普及、生涯学習支援

日本郵政グループや報道関係者、他の博物館・美術館、研究者等に対して積極的に収蔵資料の撮影や閲覧、取材等に対応して照会回答を行ったほか、通信文化資料の有効活用のために、資料貸出(49件)のほか外部機関で講演会などを積極的に行った。

No.	項目	件数
A	貸出	49件
B	撮影・データ提供・掲載・放映	239件
C	特別閲覧	64件
D	取材・照会回答	215件
E	原稿提供・監修	43件

また、教育・普及活動の一端として、大学在学中の博物館学芸員課程受講者を対象に博物館実習を行っているほか、日本郵政グループの社員研修などへの協力も実施した。

3 前島密賞の贈呈事業

前島密賞は、近代国家の建設に当たり、社会の基盤となる郵便や物流をはじめとしたネットワークを整備し、国民の暮らしに多大な利便性をもたらした通信事業の創始者である前島密の功績

を記念し、文字コミュニケーション・情報通信・放送分野でその精神を伝承・発展せしめるために、昭和30年度に創設された。以来、同分野において顕著な功績のあった方々1,057名(団体を含む。)に贈呈して、その功績を称え顕彰するとともに文字コミュニケーション・情報通信・放送文化の発展に寄与してきた。

平成29年度の前島密賞(第63回)については、例年同様に各推薦機関(総務省、日本郵政(株)、日本電信電話(株)、日本放送協会、電気通信事業者協会、日本ITU協会、日本民間放送連盟、テレコムサービス協会、電波産業会、日本ケーブルテレビ連盟)から推薦を受けることとして実施した。

平成29年7月18日に募集要綱をホームページで公表するとともに、同年9月30日を締切日として推薦を依頼し、2回の選考委員会及び理事会の議を経て27名(うち共同研究15名)の受賞者を決定し、平成30年4月10日に多数の参加者の下に贈呈式を開催した。

なお、受賞者27名の氏名、功績概要等は、各報道機関に通知したほか、当協会のホームページでも公表した。

4 会報「通信文化」の発行事業

記事内容については、読者の約6割を占める郵政グループ現役社員に一層役立つものとするため、8月号から社会の多様化に対応した内容の記事として「ダイバーシティ通信」を設け、毎月、郵便局等での様々な人々の活躍や郵便局での取り組みなどのレポートを掲載した。

また、郵政グループの経営関連の記事を増強したほか、マネジメントに関する記事も多く掲載した。

健康問題については、広く読者全体に最も関心の高いところから、引き続き、東京逓信病院の専門医が毎月交代で執筆する「ドクターに聞く 病気と健康」を掲載し、読者からは好評を得た。

また、読者への還元として、当選者に各地の名産品等が当たる「読者プレゼント」を引き続き実施した。

特集記事コーナーでは、著名人による講演会の内容を「岡野裕基金記念講演会」記事として紹介し、いずれも読者アンケートで好評を得ている。

なお、こうした会報編集に加えて、会報に掲載・同梱する広告の募集にも力を入れ、昨年度に引き続き広告収入の確保に取り組んだ。

年間12回 732,000部発行 (月平均61,000部)

発行月	特集記事	執筆者又は話し手
29年 4月	公益財団法人移行5周年記念 インタビュー 岡野裕基金記念講演会 歴史に学ぶ リーダーの条件	前財団法人逓信協会会長 左 藤 恵ほか 歴史家・作家 加 来 耕 三
5月	座談会 台湾の歴史と文化をたどる旅	相川学 井坂典明 佐村知子 柴田公子 豊村賢司 山本貞行
6月	第62回前島密賞受賞記念講演 情報通信技術と生命科学の融合が拓 く新たなICT	国立研究開発法人情報通信研究機構 益 子 信 郎

7月	岡野裕基金記念講演会 男女における購買行動の違い	(株)ハー・ストーリィ代表取締役 日 野 佳 恵 子
8月	岡野裕基金記念講演会 地方からの挑戦	松山大学女子駅伝部監督 大 西 崇 仁
9月	岡野裕基金記念講演会 「勝てる組織」の創り方	元キリンビール(株)副社長 田 村 潤
10月	岡野裕基金記念講演会 仕事ができる人は、なぜこの話し方をするのか？	(株)櫻井弘話し方研究所代表取締役社長 櫻 井 弘
11月	岡野裕基金記念講演会 勇気づけのリーダーシップ	(有)ヒューマン・ギルド代表取締役 岩 井 俊 憲
12月	前駐チェコ日本国大使に聞く チェコの魅力と文化	山川鉄郎 山碕良志 相坂宗毅
30年 1月	インタビュー 音楽の力でコミュニティーを豊かに！	一般財団法人100万人のクラシックライブ 代表理事 菫 田 秀 策
2月	岡野裕基金記念講演会 働き方を変えながら、目標を絶対達成する方法	(株)アタックス・セルース・アソシエイツ 代表取締役 横 山 信 弘
3月	岡野裕基金記念講演会 新しい発想で生きる	人間牧場主・年輪塾塾長 若 松 進 一

5 文化活動の普及・発展事業

(1) 文化講演会等の開催

当協会の元会長である故 岡野 裕氏の夫人からの寄附(1億円)による「岡野裕基金」により、全国各地において、「文化講演会」を14回、総数2,154人の参加を得て開催するとともに、手紙教室等についても55回、総数3,216人の参加を得て開催し、文化活動を行った。

文化講演会等開催状況

地方本部	開催日	施策名等	講師	開催場所	参加者数
東 北	29.11.12	地域創造シンポジウム in 浪江 第1部 講演会「一瞬に賭ける生き方」 第2部 パネルディスカッション	スポーツコメンテーター (元読売巨人軍) 鈴木 尚広 氏	浪江町	210人
関 東	30. 1.30	「生きている喜び」末期ガンからの生還	俳優 小西 博之 氏	さいたま市	258人
東 京	29.11.10	ウィークエンドセミナー 「ワクワク郵便局づくりのために」	(株)東京カモガシラランド 代表取締役社長 鴨頭 嘉人 氏	文京区	100人
信 越	29. 8. 4	「真に顧客本位の業務運営とは」 (郵政事業表彰式典における特別講演)	セゾン投信(株) 代表取締役社長 中野 晴啓 氏	長野市	222人
	30. 1.19	「自分が変われば周りが変わる！ ～地域活性化のコアになる～」	人と社会リサーチ研究所 代表 高野 登 氏	長野市	189人

北 陸	30. 3. 6	金沢の用水・惣構跡の保全	金沢市歴史都市推進課 技士 大字 隆 氏 向田 雅哉 氏	金沢市	70 人
東 海	29. 9. 2	年金セミナー 「生涯生活設計セミナー」	社会保険労務士・ 年金コンサルタント 安江 美和子 氏	静岡市	24 人
	29. 9. 3	年金セミナー 「生涯生活設計セミナー」	社会保険労務士・ 年金コンサルタント 安江 美和子 氏	名古屋市	90 人
近 畿	29. 9.27	「働き方を変えながら、目標を絶対達成 する方法」	経営コンサルタント 横山 信弘 氏	大阪市	301 人
中 国	29. 9. 2	「広島カープで学んだこと」	㈱ちゅピCOMひろしま 代表取締役 副社長 川島 宏治 氏	広島市	110 人
	30. 2. 8	「SKYACTIV エンジン開発の 志」	マツダ㈱ 常務執行役員 人見 光夫 氏	広島市	130 人
四 国	29.10.18	「新しい発想で生きる」	人間牧場主・年輪塾塾長 若松 進一 氏	松山市	120 人
九 州	29. 9. 9	「前島密 創業精神と業績」	郵政博物館 館長 井上 卓朗 氏	熊本市	130 人
	30. 2. 7	「大変だと言わずに笑おう！～岡本家、 家族の約束」	フリーアナウンサー 岡本 安代 氏	熊本市	200 人

(2) 青少年ペンフレンドクラブ（PFC）への活動支援

ア 地域交流会活動支援

手紙によるコミュニケーションの活性化を全国的に広めるため、日本郵便㈱各支社において開催された「PFC会員交流会」の講師の手配、会場の確保、ノベルティグッズの提供などの支援を行った。(計11回 参加者数496人)

イ 「レターパーク」読者プレゼント

「レターパーク（会員会報誌 毎月1回発行）」は、PFC会員メリットの重要ツールとなっている。

読者に「通信文化協会」のPRも兼ねて、抽選により毎回約20名へ賞品（レターセット等）と会報「通信文化」を贈呈した。

(3) 社会貢献活動の実施

社会貢献活動の一環として、ポスト清掃等を実施した。(計12回 参加者数839人)

6 土地・建物賃貸事業

全国6か所に所有している土地は、引続き日本郵便株式会社等へ賃貸しているほか、文京区湯島の旧建物は、老朽化に伴う耐震性の問題から6月初旬までに解体を行い、6月下旬から新たな建物の建設着工を開始して平成30年2月下旬に3階建ての建物として完成した。建物の1階には協会本部が墨田区押上から移転・入居し、2・3階は賃貸マンションとして不動産賃貸会社に一括貸し出した。

7 会員に対する諸施策

会員に対して、次の施策を実施した。

(1) 記念品等の贈呈

- ア 会員へのサービスとして、満61歳を迎える年度以降に在会10年以上となる個人会員1,063人に対し、「長期在会記念品」を贈呈した。
- イ 米寿を迎えた個人会員490人に「米寿記念品」を贈呈した。
- ウ 協会手帳を配付した（希望者のみ）。

(2) 「郵政博物館」入館料の割引

会員サービスの一環として、本人及び同伴の家族が入館する場合、入館料50円の割引を実施した。（割引後の入館料 大人250円、小人100円）

(3) 叙勲祝賀会(会費制)の開催

勲章を受章した本部及び関東・東京・南関東地方本部所属の会員を対象に、本部及び関東・東京・南関東地方本部の共催で、春と秋に祝賀会(米寿祝賀会を併合開催)を開催した。また、北海道、東北、中国、九州及び沖縄地方本部においても叙勲祝賀会を開催した。

(4) 新年賀詞交歓会(会費制)の開催

東京都内と関東・南関東地域在住の会員を対象に、本部及び関東・東京・南関東地方本部の共催で1月12日(金)、東海大学校友会館(霞が関ビル35階)において開催した。また、北海道、東北、東海及び中国地方本部においても新年賀詞交歓会を開催した。

8 団体傷害保険等の取扱

通信文化協会会員及び郵政グループ社員を対象とする福利厚生のための傷害保険等契約状況は、次のとおりである。

【平成29年度における契約状況】

区 別	口・件数	保 険 料
団 体 保 険	75 千口	482 百万円
団 体 扱 保 険	5 千件	255 百万円

9 会員増加対策

平成29年度の会員増加対策については、新規入会の個人会員会費の1,000円割引キャンペーンの継続や定年退職者等のシニア会員への継続確保施策に取り組み、事業運営の基盤である会員の獲得に努めることとし、純増目標として、個人会員・法人会員(口数)を合わせた1,070人/口として設定した。

地方本部における勧奨活動体制としての運営委員会の開催や地域に密着した参与の積極的な勧奨活動体制の強化、また、会員サービスとしての会報の掲載内容充実を図り、身近な「地方本部だより」の発行、会費の税制優遇の周知などにより、新規加入会員は2,986人となったものの、対前年度末の個人会員数・法人会員(口数)に対しては、436人/口(対目標40.7%)の純増に留まった。

会員の現況は次のとおりである。

区 別	平成29年度末	平成28年度末	増・減
個人会員(人)	61,410	60,970	440人増
法人会員(口)	942	946	4口減

(個人会員地方本部等内訳)

区 別	平成29年度末(人)
北海道	5,293
東北	6,275
関東	5,555
東京	4,935
南関東	2,043
信越	4,172
北陸	2,301
東海	6,874
近畿	8,539
中国	4,684
四国	2,963
九州	6,699
沖縄	455
本部	622
合計	61,410

(参考)

「免除会員及び在会15年以上となる終身会員に対する寄附のお願い」として、平成22年度から会報の配付を希望する会員には会報郵送料等相当の寄附(支援)をお願いしており、29年度は2,023人の会員から総額3,068,000円の寄附収入があった。

10 役員会議等開催状況

重要案件の審議のために開催した会議は、次のとおりである。

代表理事の職務執行状況の報告は、第19回及び第20回理事会において行った。

(1) 理事会

○ 第19回理事会(平成29年5月31日)

- <議案>
- 1 中西重思・遺児育英基金の廃止等
 - 2 平成28年度事業報告
 - 3 平成28年度決算報告
 - 4 特別寄附金の受入れ
 - 5 定時評議員会の開催日時等
 - 6 内規類の改正

○ 第20回理事会(平成30年2月9日)

- <議案>
- 1 第63回前島密賞の授賞者決定

- 2 平成30年度事業計画
- 3 平成30年度収支予算、資金調達及び設備投資の見込み
- 4 定款の変更
- 5 公益目的事業内容の変更
- 6 定時評議員会の開催

(2) 評議員会

○ 第11回 評議員会 (平成29年6月19日)

- <議案>
- 1 議長の選出
 - 2 議事録署名人の選出
 - 3 平成28年度決算報告書
 - 5 評議員の選任
 - 6 理事の選任

○ 第12回 評議員会 (平成30年3月9日)

- <議案>
- 1 議長の選出
 - 2 議事録署名人の選出
 - 3 定款の変更
 - 4 平成30年度事業計画
 - 5 平成30年度収支予算、資金調達及び設備投資の見込み

1.1 業務等の見直し

協会の存立基盤である会員の確保・会費収入の確保は協会財務に連動する極めて重要な業務であるため、より一層、地方本部における執行体制の強化を図れる本部長等人材の活用・登用を推進している。

また、本部では、文京区の湯島ビル建設等の推進管理に当たり、責任ある態勢の確保のため、平成29年3月に「企画財務部」を設けており、解体・新築計画の円滑な実行により、予定どおり平成30年2月完成、3月9日に本部移転が完了した。

さらに、会員確保・会員サービスの観点からも、海外の郵政博物館視察の計画（当面、韓国・台湾、中国）を策定し、郵政事業の歴史探訪への参加者を広く募り、実行していくため、専担の職員の配置を行い、円滑な実施を図っている。

平成29年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成30年6月

公益財団法人 通信文化協会